

令和6年度 夏の造形研修会＜研修内容＞ 8月2日(金)

主催：名古屋市造形教育研究会

後援：名古屋市教育会

第1部 公開模擬授業 【13:00～】

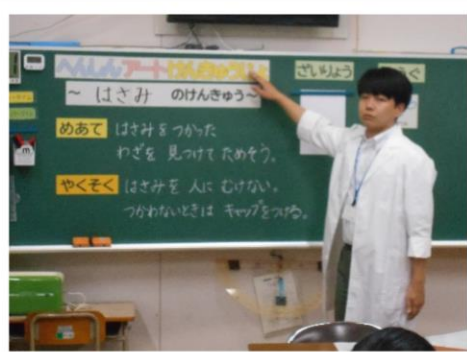
研修会テーマ

『学びのコンパスに即した これからの図工・美術の授業づくり』

※ 各模擬授業の詳細(授業案)は、別途に添付してあります。

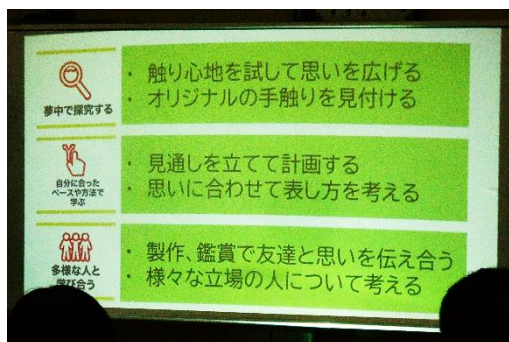
参観される先生方に児童・生徒役になってもらい、授業に参加していただきました。

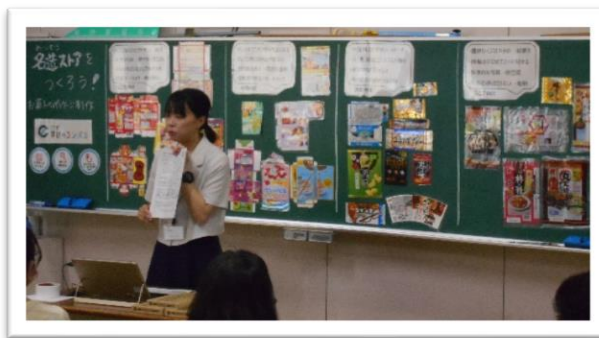
○小学校低学年「へんしんアートけんきゅうじょ」 授業者：木村 祐輔（附属小）



○小学校高学年「ふれて伝えるストーリー」

授業者：鈴木さやか（正保小）





《参加者からの感想》（一部抜粋）

小低 目あてから外れない限りは、子どもの自由な発想を大切にしていきたい。

小低 2学期に予定している題材なので、大変参考になった。

小低 わざ・アートという分かりやすいワードを使って、子どものやる気を引き出しているのが、とても良いと思った。

小低 授業中の声掛けの仕方や、題材のつながりが詳しく分かってよかった。

小低 研究所として図工の授業を行うのは、とてもいいなと思った。

小低 鑑賞の仕方のポイントがよく分かった。

小高 たくさんの材料に触れることができ、楽しかった。

小高 触れる感覚を意識することが楽しく、授業に導入してみたいと思った。

小高 作るのは楽しいけれど、評価するとなるとどうするのかなと少し考えた。

小高 学びのコンパスに沿って、どのように授業を進めるとよいか、よく分かった。

小高 自由進度をどのように捉えるかが疑問だったが、少し解決策が見えた気がする。

中学 板書をみただけでワクワクするような指導、自分も実現できるよう心掛けたい。

中学 積極的に ACT を活用していくヒントになった。

中学 描いた作品の取り込みが案外きれいで、取り込んだものの色の変化もできたので、とてもよかった。

中学 「お菓子」の捉え方の幅が広すぎて、何を考えればよいのか迷ってしまった。

第2部 アイデアミニ講座 【14:05～】

○小学校低学年 講師：栞原 好江（名東小） 教科書や市教育課程の効果的な活用の仕方を紹介



○小学校高学年 講師：大島 聖矢（明正小） 指導員としての図工ノウハウを紹介



○中学校 講師：佐久間貴子（山王中） 「デザイン思考」を生かした発想の仕方を紹介



《参加者からの感想》（一部抜粋）

小低 学びのコンパスと授業をつなげて、テーマを決めたり、材料を用意したりする方法がよく分かった。

小低 教科書の使い方が分かった。タブレットを活用していこうと思う。

小低 教科書のQRコードには、たくさんのバリエーションがあることを知った。

小低 教育課程の見方を知ることができてとてもよかった。見落としがちな細かい部分まで解説があり、とても参考になった。

小高 学びのコンパスを踏まえて、今、子どもに求められているもの・ことが分かった。

小高 人物の描き方ばかりに目がいきすぎていたと改めて考えさせられた。5・6年生に求められる「材質」「方向感」「物のバランス」「奥行き」を意識させて指導していきたい。

小高 造形活動の学ぶよさについて、なるほどと思った。様々な作品例を見せてもらい、こういう作品もありなんだと、その幅の広さにより刺激を受けた。

小高 teams のデータを活用させてくれるとのこと。よくある疑問に答える形の講座が助かる。

小高 9月以降の授業に役立てたいアイデアを知ることができた。

中学 他の人の意見を取り入れて考え、自分の作品に反映するとよりよいものができるし、より深く考えることができると思った。

中学 デザイン思考について学ぶことができ、教える土台を少し固めることができた。

中学 制作に入るまでの発想やブラッシュアップの過程について、改めて考えるきっかけになった。

中学 生徒の声を集め、みんなで話し合っ、そこからピクトグラムをつくるという流れがおもしろいと思った。生徒の声を区分けするのが正直難しく、難航した。

第3部 VRを用いた これからの図工・美術の授業 【14:40~】

八幡中の高橋幸夫先生を講師に、実際にVRを触って、観て、デジタルアートを制作する体験ができる貴重な機会となりました。

図工・美術の制作にどう生かせるかの可能性を探りました。



☆ 体育館で、希望する参加者にも体験してもらいました。



《参加者からの感想》(一部抜粋)

- 子どもたちが知っている世界を、教員もきちんと知っておくことが大切で、図工と関連できるところもあると思った。
- 造形の新しい可能性を感じられてワクワクした。学校現場への導入の課題や具体的な活用の方法について、もっと深く知りたい。
- 二次元から三次元への作品づくりが変わっていく進化、楽しさを感じた。
- もっとたくさん時間をとって、VRの具体的なノウハウを聞きたかった。
- ICTを利用した学習の重要性がよく分かった。
- 常にアップデートする姿勢をもつことが大切だと改めて思った。
- ドローンは、生活の学校探検でも使えそうだった。
- 「増える、変化する」だけでなく「減らす、手放す」ものも提案しないと苦しくなる。
- 金銭的な問題を解決できるのかどうか気になる。
- 興味はあるが、基礎知識としての国算理車英等も大切かなと思う。
- すごいなあとは思いましたが…。(たぶん自分の頭がかたいのだと…。)
- VRは興味を引き、色々なことに使えますが、教育現場で何のために行うのか、いまひとつ、まだ分からないところがある。
- 学校でどのように活かすのか、各学校に配付されるのか、されないと活かせない。

第4部 造形講演会 【15:00～】

演題 『ナゴヤ学びのコンパスと授業づくり』

「ナゴヤ学びのコンパス」をよりいっそう推し進めるために、「個別最適な学び」「協働的な学び」をいかに取り入れ、子どもたちの可能性を引き出していくか、具体的な実践例を紹介していただきながら、ご講演をいただきます。ぜひご参加ください。



【講師】文化庁参事官（芸術文化担当）付 教科調査官
文部科学省 初等中等教育局教育課程教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官
小林 恭代 先生



《参加者からの感想》(一部抜粋)

- 小学校低学年～中学校まで、どんなことを目標にして、どんな指導をしていけばよいか考えることができた。
- 実際の授業の写真を盛り込んで話してくれたので、とても分かりやすかった。
- これからの図画工作科の指針について勉強になった。資質能力、感性、想像力など、たくさんのキーワードが心に残った。特に図画工作科は自己表現という言葉が心に残った。自己表現を評価するのは大変難しい、困難だと感じた。
- 図工や表現活動がある意義がよく分かった。子どもの感性や想像力を大切にしたい。
- 子どもたちが生き生きと活動できるよう、場面設定や声掛けの工夫をしていきたい。
- 子どもへの声掛けの仕方、子どもの発想力が変わったりしていくのだと思った。学びのコンパスが図工に合っているということで、どんどん進めていきたいと思った。
- 学習指導要領や「ナゴヤ学びのコンパス」の理論が頭の中で整理できた。
- 学びのコンパスを意識して、子どもが自分の思いを大切にできる授業を進めたい。
- 個別最適だけでなく、協働的な学びも大事であることを改めて学んだ。

《夏の造形研修会について 参加者からの要望等》(一部抜粋)

- 図工の指導が苦手なので、模擬授業やアイデアミニ講座があって、勉強になった。
- とても学ぶことが多く、楽しい研修会だった。是非、また参加したい。
- とても勉強になった。2学期からの学習に活かしていきたいと思った。
- 図工好きの人間としては、1日研修でガッツリ学びたいと思った。内容が魅力的。
- 図工の評価の仕方や基準などについて知りたい。
- ワークショップのような体験会で、様々な教材が体験できるとおもしろいと思った。

令和6年度 夏の造形研修会＜研修内容＞ 8月2日(金)

主催：名古屋市造形教育研究会

後援：名古屋市教育会

第1部 公開模擬授業 【13:00～】

研修会テーマ

『学びのコンパスに即した これからの図工・美術の授業づくり(仮)』

参観される先生方に児童・生徒役になってもらい、授業に参加していただきます。

○小学校低学年 授業者：木村 祐輔 (附属小)

○小学校高学年 授業者：鈴木さやか (正保小)

○中学校 授業者：秋田 友加 (港南中)

☆ 授業のポイント

- 学びのコンパスの要素を取り入れる
- 身に付けさせたい力を明確にする
- 着目させたい造形的な特徴を明確にする

第2部 アイデアミニ講座 【14:05～】

○小学校低学年 講師：栞原 好江 (名東小) 教科書や市教育課程の効果的な活用の仕方を紹介

○小学校高学年 講師：大島 聖矢 (明正小) 指導員としての図工ノウハウを紹介

○中学校 講師：佐久間貴子 (山王中) 「デザイン思考」を生かした発想の仕方を紹介

第3部 VRを用いた これからの図工・美術の授業 【14:40～】

八幡中の高橋幸夫先生を講師に、実際にVRを触って、観て、デジタルアートを制作する体験ができる貴重な機会となります。
図工・美術の制作にどう生かせるかの可能性を探ります。



第4部 造形講演会 【15:00～】

演題 『ナゴヤ学びのコンパスと授業づくり(仮)』

「ナゴヤ学びのコンパス」をよりいっそう推し進めるために、「個別最適な学び」「協働的な学び」をいかに取り入れ、子どもたちの可能性を引き出していくか、具体的な実践例を紹介していただきながら、ご講演をいただきます。ぜひご参加ください。

【講師プロフィール】

文化庁参事官(芸術文化担当)付 教科調査官

文部科学省 初等中等教育局教育課程教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

小林 恭代 先生

千葉大学教育学部小学校教員養成課程卒業

千葉県公立小学校教諭、千葉大学教育学部附属小学校教諭、千葉県四街道市立栗山小学校教頭などを経て、令和2年(2020)年4月現職。

